

令和3年度 都城市立木之川内小学校 学校運営協議会評価報告書

4段階評価 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要す

本年度の重点目標 (1：学力の定着と向上 2：思いやりの心の育成 3：体力の向上 4：地域とともにある学校づくりの推進)

評価項目	評価指標	学校の自己評価コメント	自己評価			学校関係者評価コメント	評価
			原 則	保護者	教職員		
知	<p>① 指導方法・指導体制の工夫改善によって学力が向上しているか。</p> <p>② 読書活動の推進が図られているか。</p>	<p>○ ICT活用(一人一台の端末)を本年度の校内での研究の視点に入れ、一人1回以上の授業研究会を行った。児童は、積極的に端末の活用を行い、毎日スキルアップが図られるように指導している。保護者からも、先生方の学力をつけるための指導に理解をいただけており、96%の方がわかりやすい授業を行っている、大体行っていると答えている。</p> <p>○ 「授業中に真剣に取り組んでいる」、「分かりやすく授業を行っている」と回答した保護者はどちらも94%であり、昨年度よりも上回っている。今後も指導方法等の工夫改善をさらに進め、学力の向上に努めていきたい。</p> <p>○ 「進んで本を読んでいる」と回答した教職員は82%で、保護者は63%、児童は75%と保護者と児童は、まだ読んでいないと感じている。貸出冊数としては、昨年度とほぼ変わらず、これまでに一人平均100冊読んでおり、それ以外にもくれよん号よりの貸し出しもあり読んでいる冊数は多いと言える。</p> <p>○ 学校の年間目標であった4500冊を達成しており、12月までに6000冊近くになっている。このことから、十分に読書推進が図られているといえる。図書館サポートと連携しながら、子供たちの読書意欲を高め、読書の量と質の向上を今後も図っていく。</p>	3.3	3.4	3.1	<p>○ 指導方法を工夫して、落ち着いてわかりやすい授業を行っていることに関して、児童や保護者、教職員も90%以上の評価をしていることはすばらしいと思う。また、先生方全員が授業研究会をされ、ICTとにも専らしていく未来を見据えた教育に対応されていると考えられる。</p> <p>○ 全国学力調査の結果から国語、算数が全国・県平均を上回っている状況にあり、基礎基本が定着していることがうかがえる。今後は、学びの質を高めてほしい。教科の見方考え方を働かせた深い学びを目指してほしい。</p> <p>○ ICTの活用はこれからの時代に大事なことだが、基礎学力をしっかりとつけた上で、活用を図ってほしい。子供同士の学び合いや学習リーダーの活用など日々の実践の中でさらに研究してほしい。</p> <p>○ 少人数制の授業が行われており、個別のレベルに合わせた授業もあわせて、学校全体の学力のレベルアップにつながっていくと思うので、引き続き児童をひきつける指導をしていってほしい。</p> <p>○ 読書推進が図られており、良好な状態にある。今後は、読書活動を生かした言語活動の充実を図ってほしい。</p> <p>○ 家庭での読書時間が少ないと予想されるため、学校外での読書活動を推進できたら考える。</p> <p>○ 読書感想文コンクール等を行い、感銘を受けたことを文章にし、他者に伝えることでも読書推進を図ってほしい。そうすることで、書く力を高めることにつながると考える。</p> <p>○ 読書活動は、子供の感性を刺激し、想像力や豊かな心をはくむだけでなく、思考力や表現力も高められるものだと思う。引き続き、読書環境を整え、読書に親しむ児童が増えることを期待する。</p>	3.7
			徳	<p>③ 人権教育・道徳教育の充実が図られ、思いやりの心が育成されているか。</p> <p>④ 児童相互の絆を深めるとともに対人関係能力の育成が図られているか。</p>	<p>○ 「思いやりをもってやさしくしている」と答えた児童は83%である。「友達と仲良く、親切にしている」と保護者の91%が回答している。また、保護者の87%が「思いやりや困難を乗り越える指導をしている」と答えている。このことから、児童の思いやりの心の育成が十分図られていると考えられる。今後も人権教育や道徳教育の推進を図っていく。</p> <p>○ 「自分の住んでいる地域を自慢できる」と答えた保護者は60%、児童は59%で、昨年度よりも減少している状況である。新型コロナウイルスの感染状況により、地域の方々や保育園等とのふれあう機会が減り、地域のよさ、すばらしさについて気付ける場が減ってきたことも、要因の一つであると考えられる。地域との交流の手段をさらに工夫し、木之川内を大切にしている教育の取組を進めていく。</p> <p>○ 「だれに対してもあいさつを行う」と答えた保護者は84%、児童は92%であった。コミュニケーション能力が高い児童も多い反面、相手の気持ちを十分考えられず行動してしまう児童もいる。昨年度より児童間のふれあう機会が減り、工夫した取組が必要である。</p>		3.4
体	<p>⑤ 体力向上プランに沿って計画的・継続的に体力の向上が図られているか。</p> <p>⑥ 基本的な生活習慣の定着や心身ともに健康に生活する態度が育成されているか。</p>	<p>○ 「進んで運動し、自分の体をきたえている」と答えた保護者が60%、児童が85%と大きく伸びたが、職員としては73%であり、感染状況も踏まえたため、十分な体育活動が行えなかった。通常の体力テストは実施できなかったが、5年、6年で実施したソフトボール投げの結果は、男女とも昨年度の県平均を上回っている。今後も、体力向上プランをもとに課題となる運動を中心に組み合わせていきたい。</p> <p>○ 『「早寝、早起き、朝ごはん」に心掛け、規則正しい生活を送っている。』と答えた保護者が75%、児童86%、職員82%と、昨年度より向上した。今後も継続して、生活リズムの大切さを啓発していく必要がある。</p> <p>○ 「自宅でゲームをしたり、テレビを見る時間が決まっている」と答えた保護者は71%、児童は70%であった。家庭での約束を守ることに伴って授業や小中一貫した取組・啓発をさらに進めていく必要がある。また、参観日の学級懇談でも取り上げ、家庭内でのきまりを設定するよう啓発を図っていく。</p>				3.5	3.2
			地域とともにある学校づくりの推進	<p>⑦ 家庭や地域との連携による教育活動の充実が図られているか。</p>	<p>○ 本年度は新型コロナウイルスの感染状況により、ボランティアの年間計画の作成・役割分担を文書で提案し、地域コーディネーターを通して、学校支援の体制を整え、昨年度並みの取組を実施できている。また、民生委員児童委員を中心とした学校支援ボランティアの会にも力を貸していただき、学校の教育活動を支えていただけたことはよかった。</p> <p>○ ホームページのこまめな更新や学校便りの発行により「学校の教育方針や活動の様子等を分かりやすく伝えている」と回答した保護者は96%であった。学校と地域が一緒に取り組んでいること、学校行事等の様子を紹介し、家庭・地域と連携・協働して、ふるさとに愛情と誇りをもった児童の育成に更に取り組んでいくようにしたい。公民館へも学校だよりを配付することにより、学校から地域へ情報を発信し、学校の取組を伝えていきたい。</p>	3.3	3.2